

## 幾何学概論 A 演習

担当：見村 万佐人（みむら まさと）

この演習に関して（2014/4/7）

[講義ウェブサイト]

<http://www.math.tohoku.ac.jp/~mimura/geoma14-j.html>

レポート問題を出したときにそのファイルなどを載せます（演習問題自体はウェブサイトには載せません。演習に欠席した場合は友達に見せてもらうか、次回の演習のときに取りに来るか、オフィス（合同 A 棟 1110 室）まで来てください）。

[成績について]

成績は、「講義の定期試験の成績」に「演習の平常点」を加味して付けます。ですので、**講義の定期試験の成績が非常に悪いと、演習の出席状況がよくとも、「不可」がつくことはあり得ます。**

※ 再履修や他学科履修などで本年度の幾何学概論 A 講義を履修しない人に関しては、「演習の平常点」の配点を多くしてそれのみで成績を付けます。そのような人で良い成績を目指す人は、下述のレポートを頑張って平常点を稼いで下さい。この措置は講義を履修していない人のためのものです。講義を履修してその試験を放棄した人に関しては、上述の通常の成績計算方法で「試験の定期試験の成績」の寄与を 0 点として計算します。

「演習の平常点」は、以下の 2 つの要素からなります：

- 毎回の演習では通常、提出用問題を配り、その場で解いてもらいます。解答用紙は後で回収し、提出状況や答案の内容によって基本的な「演習の平常点」を付けます。下に書くように、遅刻に関するペナルティがあります。
- また、全回を通じて 3 回程度レポートを出す予定です。基本的には問題配布の 2 週間後の演習の開始時に提出をしてもらう予定です。レポート問題には発展的な問題も（解いても解かなくてもよい問題として）入れておきますので、意欲のある人は積極的に挑戦してみてください。

その他、時間があれば希望者による黒板発表も行います（が、例年時間が余ったためしはありません）。

[演習の進め方]

演習は通常、以下の形式で行なってもらいます。

（前半）提出用問題をその場で解く。（120 分程度）

↪（後半）解説をするので、それを聞いて自分の答案を自己採点する。内容の理解も深める。（60 分程度）

（前半）の問題演習と（後半）の解説には明確な時間の境目はなく、一定時間で区切ってある問題を解説して、そのあと次の問題の演習に移る、というような形式になることも多くあると思います。

- 前半の解答用紙は回収します。TA が各人の自己採点をチェックし、次回返却します。上に書いた通り、これが「演習の平常点」の基本的な部分となります。自己採点の結果がこのチェックと大きく食い違っている場合、その演習回の内容を“わかったつもり”になっている可能性があるので要注意です。
- “黒板発表用問題” も入れておきますが、上に書いたように恐らく黒板発表を行なう時間はありません。自習して理解を深めるための問題と考えて下さい。# 印のついている黒板発表用問題は発展問題です。幾何学概論A講義内容の基本～標準部分の理解には、本演習の提出用問題の演習・復習と # 印のついていない黒板発表問題の演習をして下さい。

### [いくつかのルール]

本演習で、気を付けるべきルールを書きます。

- (1) (遅刻ペナルティ) 提出用問題の演習開始から 30 分を超えて遅れてきた人は、解答用紙の記入・提出はできません。従って、その回の基本の「演習の平常点」の加点はなくなります。
- (2) (答案の自己採点について) 自己採点してもらった答案は TA がチェックし、A, B, C の3段階で評価します (A が一番良いです)。その際、以下に挙げる自己採点のルールを守っていないものは C を付けます。
  - 答案は必ず自己採点 (丸付け) をして下さい。
  - 前半の解説を聞いて答案にコメントを残す場合は、ボールペンなどを使い、自分の解答と解説の部分との区別がつくように書いてください。なお、TA のチェックは赤いボールペンで行われることが多いので、上記のようなコメントは黒字ないしは青字などのボールペンで行なうことを勧めます。
 

※ 解答用紙に解答してもらうのは、提出用問題のうち一部の問題です。解答用紙の紙面の都合上、ノートを用意して残りの問題はそこに解いてもらう形にして下さい。

※ 答案の返却は次の演習のときになるので、復習などをしっかり行いたい人は、演習の解説の記録のためにノートを用意することを勧めます。